

モンゴリアンクラブ

No 39 2023/3/1
発行：鳥取県モンゴル
中央県親善協会

堆肥化施設技術研修生をふたり受け入れました

モンゴル中央県のジャルガランド町から 2019 年にズーンモド市に移転した堆肥化施設。この技術研修のため、2022 年 12 月 6 日から 12 日まで、2 人の技術者を受け入れました。座学と実技を熱心に受講、理解確認テストにも合格。今後、堆肥化施設の適切な運営により、農作物の生産向上が期待されます。



受講生は
チェチェグマーさん(36)
ウランチメグさん(36 歳)
の 2 人です。

座学・実技とも当協会の山本一房理事に講師を担っていただきました。通訳は国際交流財団のビャンバさんに事前学習の上で常時対応していただきました。



会長宅で本格的な日本間の説明に感激！



「正確に測って正しい計算を導く」ことの重要性を学ぶ



研修を終えて鳥取砂丘へ

令和 5 年度鳥取県モンゴル中央県親善協会総会を開催します

日時 令和 5 年 4 月 15 日(土) 午前 10 時半から午後 1 時半まで
場所 エキパル倉吉 多目的ホール (倉吉駅 1 階)
内容 総会、日本語学級の子ども達とオンライン交流、会員交流昼食会



2022 年度もオンラインで青少年交流

日本語学級の子ども達との交流事業は、コロナ禍を踏まえて昨年度に引きつづき、オンラインで行いました。3回の交流には毎回15人ほどの子ども達が集まり、鳥取会場の会員と一緒に日本の文化を楽しみました。通訳には国際交流財団のビャンバさんと日南町交流支援員のノミンさんに協力していただきました。

城北和太鼓と書道パフォーマンスを紹介



8月7日、市民会館で開催された「稲葉和太鼓の祭典」から城北太鼓クラブの演奏やフィナーレのしゃんしゃん傘踊りをDVDにまとめ、視聴しました。子ども達は、以前、鳥取市からもらったミニ傘の本来の踊りを見ることができて喜んでいました。

1回目
10月2日(日)10時
鳥取市さざんか会館
↑↓
モンゴル中央県
日本語学級

境港のマグロ市場



すぐに氷詰め作業



通訳のノミンさんと石黒理事

当協会の石黒理事の案内で境港のマグロの水揚げ・氷詰め・セリ場を撮影、DVDにまとめ、視聴しました。こども達は大きなマグロに興奮。「頭はどうやってたべますか?」との質問に石黒理事は「兜焼きで食べたり、肥料の材料に使う」と説明されました。

2回目
10月15日(土)10時
境港夢みなとタワー
鳥取市さざんか会館
↑↓
モンゴル中央県
日本語学級

折り紙ワークショップ

3回目 10月23日(日)10時
鳥取市さざんか会館 ↔
モンゴル中央県日本語学級

コマの折り方を藤原さんに教わりながら、子ども達と鳥取会場の会員が折りました。

出来上がったコマでコマ回し競争をすると、子ども達の方が長く回して喜んでいました。



折り紙指導の藤原さん



上 子ども達が折ったコマ
左 一番長く回ったよ!



馬頭琴を中心としたオーケストラの演奏を堪能



モンゴル日本外交関係樹立 50 周年記念事業の一環で、モンゴル国立馬頭琴交響楽団が来日し、2022 年 12 月 16 日(金)19 時から米子市公会堂でも演奏会が行われました。

迫力のある演奏の他、交響楽団を構成するモンゴル古楽器の紹介やモンゴル民謡歌手による長唄、モンゴルオペラ歌手による歌曲もあり、感動と興奮で、あっという間の 2 時間でした。

(当協会もチケット販売を協力しました。)



モンゴル古楽器

上左：エベルブレイ

モンゴル語でエベルは角、ブレイは笛

上右：ヤトガ

日本の琴に形も音もそっくり

右：ヨーチン

美しい音色の打楽器

JICA 中国 記念事業に協力し 最近のモンゴル事情を紹介



JICA 海外協力隊モンゴル派遣 30 周年及び鳥取県モンゴル中央県友好交流 25 周年を記念して、JICA 中国が記念事業を実施。当会も協力しました。

2022 年 12 月 16 日(土) とりぎん文化会館

モンゴルの暮らしのパネルや民族衣装・民芸品の展示、トークセッションがありました。トークには当会の高塚さんと宮本さんが参加、新しい空港の様子やモンゴル人の語学習得力の高さなど紹介され、来場者はモンゴルの新しい発見を楽しみました。



トークセッション 左から JICA 中国加藤さん、当会から高塚さん、宮本さん、国際交流財団ビャンバジャルガルさん

元鳥取県国際交流員「のの」さん からお便りが届きました♪

2001年8月から2004年7月まで鳥取県職員

皆様 サェンバエノー
元鳥取県国際交流員のサンジドルジ・
ムンフジャルガル(通称のの)です。

2018年1月に静岡県伊豆の国市役所協働
まちづくり課で国際交流員として再任用さ
れ、今年7月に5年間の任期が終わり帰国
することとなりました。

鳥取での経験を活かし再び国際交流員とし
て市民レベルで身近に交流することが出来
て、とてもよかったです。ニュースやテレビ
番組で鳥取県が取り上げられると目が行き、
鳥取での思い出を思い浮かべます。

一期一会を胸に皆様と母国モンゴルで再び
お会いできるのを楽しみにしています。



イチゴの国、伊豆の国のイチゴハウスにて

東京パラリンピックの時にはモンゴル
チームのサポートで10日間選手村にいま
した。選手村ビレッジプラザで「智頭町」
と書かれた柱を発見！嬉しくて思わず写真
を撮りました。

(選手村ビレッジプラザはSDGsを踏まえ
公募によって全国63の自治体から無償
提供を受けた木材を使用して建設、大会
後には解体し、提供元の自治体に返却。)



東京パラリンピック
選手村ビレッジプラザ



「智頭町」って書
いてある！

ムンフジャルガルさんは、3人目のモンゴルからの国際
交流員でした。彼女の愛称は幼い時お父さんがつけてくれ
た「のの」ということで、多くの方に「ののちゃん」と親
しみを込めて呼ばれていました。

＜鳥取在任中に協力いただいた主な事業＞

- ・堆肥化施設の運営を開始
- ・日本語学級開設
- ・モンゴル中央児童・生徒日本語体験事業実施
- ・モンゴル民族音楽演奏会実施
- ・モンゴル友好交流の翼派遣

大学を出たての若者が、翻訳、通訳、連絡調整などの業
務を、笑顔いっぱいに取り組む姿は、とても素敵でした。
鳥取から帰国した後は、在モンゴル日本大使館の領事部に
就職。親善協会と大使館とのパイプ役という貴重な働きを
していただいたことに感謝しています。

ののちゃん、次はモンゴルで会いましょう。

(高塚 記)